

尾川原奈美江さんの想い出

「坊や!どないしたん?」

二七回生 萩原 直大

私は末っ子の長男で、姉が三人です。千二小・22回生の姉が尾川原さんと同級生。今も千里山の上の噴水近くに住んでいます。

その姉、尾川原さん・森田(現高橋)万里さんの三人は小学校時代からの大の仲良しです。お互いの家をよく行き来していました。私もかなり小さい頃からお二人には可愛がっていただけていました。

三人一緒に中高一貫校の大阪女学院に進学。私とは5つも歳が違うので、当時7〜8歳の身には、大人と子供の違いでした。

『プールと尾川原さん』

郊外学園には深いプールと浅いプールがありました。私の記憶では昭和26年と27年の二回だけ、夏休み

の一時期、我々に開放されました。私が千二小二年生と三年生の時です。戦前のことは当然知りません。

二年生のある日、泳げない私は浅い方のプールで水浴びをする程度だったので、一人で行っておりました。その内に大きい方の用足しがしたくなり、急いで着替え、自宅へ。しかし、時すでに遅く、間に合いませんでした。当時よく流行った「ミッチャン道々*垂れて、カシミがないので手で葺いた〜」です。私の場合は作品をパンツの中に残し、カニ歩きで家に帰りました。風呂場でお袋にお尻を洗ってもらい、しばらく下半身裸のまま、部屋で寝転んでいるとそこに当時中学一年生の尾川原さんが

「坊や!どないしたん?」と覗き込んできたのです。もつと以前から、尾川原さんを知っていたはずですが、記憶の中に登場するのはこれが最初です。

翌年の夏も郊外学園のプールに、姉、尾川原さんたちと行きました。その時も泳げないので浅い方のプールで遊んでいると、姉たちが来て我々で助けてあげるから深い方のプールで泳ぎに挑戦せよとの命令。

結局は溺れてかなりの水を飲んだ覚えがあります。翌年からは郊外学園のプールは閉鎖となり、いつの間

にか郊外学園自体が、富士銀行の独身寮に変わりました。そこで夏になると、大阪女学院のプールに姉や尾川原さんに連れて行ってもらったものです。天六から

長〜い商店街を通り、国鉄天満駅へ。そこから当時はまだ環状ではなかった大阪駅―天王寺駅間の国電に乗って玉造へ。途中の車窓に広がる戦争の傷跡。あの凄まじい光景を忘れることはできません。

さすがに私が中学生になってからは、中学仲間と一緒に扇町にあった国際競泳にも使われた、古橋や橋爪も泳いだことがあるプールで泳ぎました。

尾川原さんは高校を卒業されると、毎日新聞かその関連に就職され、しばらくすると受付嬢をされていたと聞きました。当時の受付とはある意味会社の顔・看板で、その職場の前任者があの**大女優 司葉子** だったと聞いたことがあります。本当ですか?

時が流れて40数年が過ぎた1996年。柿崎さんより突然我が家に電話があり、東京に千里第二小学校卒の同窓会があること、毎年総会・懇親会を催しているので、是非参加するようにとの要請があり、初めて銀

座「あしべ」なる店に行きました。

尾川原さんは既にこの会に参加されていて、私は再開を果たすことが出来ました。

「あら、坊や、お久しぶり」と言われたかどうかはともかく、私としては深々と頭を下げるのみです。遠い過去の恥ずかしい思い出や、お世話になったこともありますが、元々私は美人に弱いのです。

以来、総会時のみでなく、年に数回開かれる常任幹事会にも積極的に出席され、再び親交を深めました。

『尾川原さんとの連弾』

2004年10月10日 第8回千里山会総会がお茶の水の東京ガーデンパレスで開かれました。この時、14回生根石絢子さんがカリフォルニアから参加されており、しかもこの日が誕生日。懇親会でそれが披露され、千里山会から花束が同期生の矢口里子さんの手で贈呈されました。

その懇親会の司会をしていた私は、ハッピーバスター・トゥ・ユーの曲を即興で弾きました。実はこれには訳があり、根石さんの誕生日の9日前が私の女房の誕生日。当時、私は女房の友達のお嬢さんにピアノを

習っていました。この先生は私や子供たちを教えると同時に日比谷の日生本社の地下にあるレストランでもピアノ演奏をされていました。彼女のアイデアによりこのレストランで女房の誕生日会を実施。

私と女房が食事をし、最後の私のハッピーバースデーの演奏でワゴンに乗せられたケーキが運ばれてくる、というもの。このレストランは時には結婚式にも使われ、何よりも宝塚劇場の隣のため、舞台が終わった宝ジエンヌが食事にもあつた店。

短く、易しい曲ではありませんが、それでも何度も何度も女房のために練習した曲。根石さんにも感謝され、カリフォルニアに帰られてからお礼の国際電話を頂きました。

そんなことがあつたものですから後日、尾川原さんから、「連弾の誘い」を受けました。曲はウエーバーの『舞踏会への招待』。

翌年の11月26日 第9回千里山会での実施が決まりました。楽譜のコピーが送られて来て、先の先生にも協力願ひ練習をしました。当時は総会の一か月前ぐらいに飯田橋の駅ビルの一室を借りて、合唱隊が集まり練習をしておりました。そこに私も顔を出し、初め

て尾川原さんと曲を合わせてみると、何と私は半分の曲しか練習をしていないことが判明。慌てて残り半分も練習。といっても当時の私はまだフル勤務で働いていましたから、とても時間が足りません。しかも尾川原さんとはぶつつけ本番。

「どうせ皆お酒を呑み、騒がしいので聞いていない」ことを知っていました。そこで「まあいいか」と腹を括りました。案の定、それなりに弾けたのは最初のうちのみ、途中からは指が止まってしまい、そうなるのもう動きません。尾川原さんが一人で弾くのみ。

冷や汗タラタラ、僅か数分が数時間にも感じられるうちにやっと演奏も終わりました。

その総会に特別参加されていた26回生 瀧（大森）梢さんから「アンタの弾く音は、ちっとも聞こえなかったよ」と言われ、矢張りばれていたかと思いました。

それにしても尾川原さんは、絵を描き、ピアノを弾き且つ、お仲間とミニコンサートを開き・・・。

実に多彩な才能の持ち主。いずれ天国でリベンジ連弾を！ 否、尾川原さんは天国でも、私は地獄。閻魔さんと麻雀でもします。本当にお世話になりました。